

日系社会との連携

持続的な「共創社会」の構築に向けて

JICAは、戦後の移住政策で中南米などへ渡った人々に対する支援を実施してきました。中南米には300万人を超える世界最大の日系人コミュニティが存在し、「最強の知日派」として日本との強い絆でつながっています。一方、現地では世代交代が進み、日系社会で重要な役割を担う非日系の人々が増え、新しい活動やネットワーク化が進むなど、さまざまな変化が生じています。

これら現代の日系社会の変化を踏まえながら日系社会連携事業を実施し、日本と日系社会の新たなつながりによる持続的な「共創社会」の構築を進めていきます。

日本企業と日系社会のビジネスを促進

中南米の日系社会と日本とのビジネス連携を促進するために「中南米日系社会との連携調査団」を派遣しています。2023年度は、世界に広がる沖縄県系人のネットワークを生かして、沖縄県の中小企業8社の代表者をペルー、ボリビア、ブラジルに派遣しました。

沖縄県との結び付きが深いこの3カ国での取り組みは、沖縄をはじめとする日本全国の地方紙でも広く報道され、その結果、ビジネス展開や連携に向けた具体的な動きも出てきています。

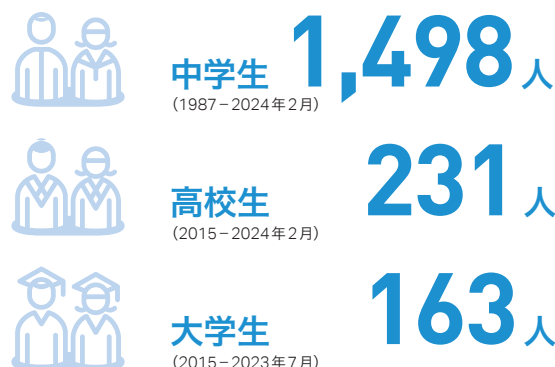
日系校同士の学び合いの場を創出

日系人や日本に対する信頼が厚いペルー政府との連携の下、第三国研修「社会経済開発のための日系社会・



自分の将来の夢について語り合う次世代育成研修で来日した日系人中高生

次世代育成研修 累計参加者



日系校の連携強化国際セミナー」を開始しました。この研修は、中南米域内の日系社会のネットワーク形成と、日本語教育の底上げを通じた若手世代の知日派・親日派人材の育成を目的としたものです。

2023年10月には、日系の学校や団体で日本語教育に携わる10カ国13人がペルーに集まり、第1回目の研修を行いました。帰国後も参加者が相互に情報交換しながら日系社会ならではの課題を共有しつつ、日本語教育のスキル向上に取り組めるネットワークが形成されるなど、大きな成果を収めました。この研修は今後5年間、定期的に開催する予定です。

日系人学生の来日研修を4年ぶりに再開

自身のルーツを学ぶとともに、日系社会と日本の懸け橋となる人材を育成する「次世代育成研修」の受け入れを、コロナ禍以降4年ぶりに再開しました。

2023年度は、中南米地域11カ国から日系人の中学生57人、高校生40人、大学生20人の計117人が参加しました。約3週間の日本滞在中に、日本の学校への体験入学、鎌倉や京都への訪問などを通じて日本の文化や歴史への理解を深め、祖父母や父母の代が経験した移住や移民の歴史を学び、研修員自身のアイデンティティについて考える機会を提供しました。